

令和7年度の取組一覧（全20件）

テーマ（課題）	採択スタートアップ・局	プロジェクト成果
『子供の事故情報データベース』を活用し、子供に安全安心な製品・サービスの開発・改良の好事例を創出したい！	株式会社 VLEAP  子供政策連携室	3D 安全教育コンテンツ「事故予防体験シミュレーター」を開発。子供の事故予防に対する理解促進や意識・行動変容につながるサービスの開発事例を創出した。
都民の学び直しを支援するポータルサイトにおいて、AI 等を活用してそれぞれの学びのニーズに合った教育コンテンツや大学等の講座を提案したい！	株式会社アウトーク  総務局	AI によるレコメンド機能の開発を実施。また、実装に向け、モニターによるトライアル利用、アンケート検証を実施。操作性に関する目標値を達成するとともに、レコメンド機能による学習意向の向上効果を一定程度確認した。
「いつでも、どこでも、楽しく学べる」中学生・高校生向けの租税教育コンテンツを提供して、税の意義や大切さを伝えたい！	株式会社 VLEAP  主税局	税と戦略で魔王に挑むデジタルボードゲームを制作。「税についてもっと知りたい・考えてみたいと思いましたか？」との設問で 5 段階評価中 3 以上が 83.1%となるなど、魅力的なコンテンツとすることができた。
最新テクノロジーやデジタル技術等を活用して、江戸文化の魅力を国内外に向けてアピールしていきたい！	株式会社シアン  生活文化局	「対話する浮世絵映像コンテンツ」と「ポータブルな組み立て式投影装置」を作成。イベントでの体験者の 8 割が「コンテンツに驚きや発見があった」と答えるなど、KPI で十分な成果を得た。
電動キックボードをはじめとする特定原付の安全利用について、魅力的な「啓発ツール」を開発し、都民の理解促進へつなげたい！	ジオ・マーク株式会社  都民安全総合対策本部	3DWeb ゲームと AI 車両判定ツールで構成される啓発ツール「特チャレ」を開発・運用。特定原付利用者のみならず非利用層にも理解促進効果を生み出し、今後の交通安全施策に資する知見を獲得した。
デジタル技術を活用し、パラスポーツ指導員等の活動実績を可視化し、パラスポーツボランティアの活動を促進したい！	株式会社 EggAI  スポーツ推進本部	AI を活用した活動管理アプリを開発。集計作業時間：80%削減達成、利便性・操作性スコア：全質問で平均 4.0 以上達成など、記録負担軽減効果等を十分に確認できた。
局キャラクターの立体化でアイキャッチを作り、都民向けに効果的な情報発信をしたい！	株式会社 SuperIO  都市整備局	局キャラクターの平面画像を 3D データ化し、ポーズや表情などを自由に選ぶことができるデジタルツールを開発。新たなアイキャッチを作成するとともに、職員のキャラクター活用意欲を創出した。
AI やドローンなど最新のテクノロジーを活用し、空き家の抽出に係る業務の効率化・精度の向上につなげたい！	株式会社 EggAI  住宅政策本部	航空写真、登記簿情報等を統合分析し、空き家候補を判定する「AI 空き家特定システム」を開発。使いやすさ・判定精度が検証により改善し、人の判断を補助するスクリーニングツールとして有効との示唆を得た。
都有施設の温室効果ガス排出量等を見える化し、都庁自らの取組をより推進したい！	株式会社 Zevero  環境局	都有施設の温室効果ガス排出量等を可視化する職員向けツールを導入し、床面積別、築年別等で施設間の比較・分析ができるよう見える化。職員アンケートでは、環境施策推進に向けての前進な成果が創出されたなど、良好な評価を得た。

テーマ（課題）	採択スタートアップ・局	プロジェクト成果
障害者の困りごとや必要な配慮を疑似体験できるデジタルコンテンツを作成し、多様なコミュニケーション手段の普及啓発につなげたい！	株式会社 EbuAction  福祉局	探索アクションゲーム『探せ！みんなのできること』を開発。若年層に親しみのあるゲームを通じ、障害の種類に応じた意思疎通等に関する理解を広げ、障害のある人もない人も互いに支え合う共生社会の実現に向けた意識を醸成した。
AI 等の活用により過去の答弁内容や関係資料を整理・検索できるようにするなど、議会関連業務の効率化を図りたい！	株式会社パブリックテクノロジーズ  福祉局・保健医療局	RAG 文書管理、過去答弁検索、答弁案作成支援、進捗管理の 4 機能を段階的に構築。全 11 項目の利用者アンケートにより効果検証を実施し、全項目で目標値を達成した。
複数ある市場施設の膨大な電子化された図面をクラウドで一元管理し、業務効率化につなげたい！	株式会社 STAR UP  中央卸売市場	図面・台帳管理システムをベースに、カスタマイズを実施。図面の一括管理及び検索性を実現することで、市場施設の維持管理業務の業務効率化が見込めることを確認できた。
デジタル技術を活用し、発注図書確認の精度向上・スピードアップを図り、インフラ整備の効果を早期に発現させたい！	株式会社 EggAI  建設局	複数の発注図書を横断的にチェックする AI 照査支援システムを開発。記載内容の不整合や二重計上等を抽出し指摘できること等を確認した。
予算要求及び決算見込資料のフォーマット・ツールを作成し、業務効率化につなげたい！	株式会社エム二  建設局	予算要求業務における入力システム、提出様式の自動出力機能を開発。業務支援の観点から有効な手段となり得ることが示された。
「都民協働」で海の森公園の生きものの情報を収集し、環境学習に役立つコンテンツを作っていきたい！	株式会社バイオーム  港湾局	アプリ上のクエストと現地イベントにより都民協働で生物データを収集。生きものの分布を可視化し、環境学習コンテンツを作成。アプリを通じた自然体験は参加者から高く評価された。
AI 技術の活用により納付書の読取や処理後の納付書の分類・振り分けに係る業務を効率化・自動化し、作業者の負担軽減につなげたい！	株式会社自動処理  会計管理局	AI-OCR プラットフォームを活用した、納付書読み取りの精度向上の検証、手書き混在・非定型帳票にも対応する仕組みを構築。既存 OCR×AI-OCR のハイブリッド運用による品質最適化の検証や、精度の向上を確認した。
デジタルツール等を活用した災害時給水ステーション（給水拠点）の情報発信を行い、認知度向上につなげたい！	ジオフラ株式会社  水道局	おでかけアプリのチェックイン機能を活用し、災害時給水ステーションの概念と、最寄りステーションの認知促進策を実施。実際にステーションへ赴く行動変容創出に寄与した。
無人資材置場の管理を遠隔で行い、業務効率化につなげたい！	ZeroToInfinity 株式会社  水道局	野外エッジカメラと各種 AI（侵入者検知等）を活用し、業務効率化、災害時業務迅速化、盗難状況把握を行うとともに録画保存を実施。全 KPI で目標を達成し、課題解決効果を確認した。
市場調査やマッチング先候補を簡単に調査可能なツール等を導入し、水道局が保有する知的財産権を活かしたい！	株式会社知財図鑑  水道局	特許分析ツールの開発及び職員向けの提供、水道局保有特許からのアイデア生成・評価、特集記事の公開を実施。水道技術がインフラ維持以外にも貢献可能な高付加価値な資産であることが提案された。
AI をはじめとするデジタル技術を活用し、下水道管路工事に係る道路占用書類の作成・工事監督業務の効率化につなげたい！	株式会社 KK Generation  下水道局	道路占用関連書類や工事監督業務に必要な書類の作成を支援するシステムの開発を実施。書類の自動作成等が実現することで設計や工事の業務の効率化が見込めることを確認した。

令和7年度 協働ストーリー

1 福祉局 障害者施策推進部 × 株式会社 EbuAction

協働テーマ

障害者の困りごとや必要な配慮を疑似体験できるデジタルコンテンツを作成し、多様なコミュニケーション手段の普及啓発につなげたい！

協働の様子

本協働プロジェクトでは、単なるコンテンツ開発にとどまらず、ゲームという特性を活かしながら、コミュニケーションの多様性をいかに伝え、学びにつなげていくかを、プロジェクト全体を通じて継続的に検討してきました。開発にあたっては、「東京都障害者情報コミュニケーション条例」をスタートアップ自らが読み込み、その趣旨や背景への理解を深めた上で、ゲーム設計に反映させていきました。コンテンツ設計などの検討内容については福祉局とも随時すり合わせを行い、実際にプレイする方にとって理解が深まり、現実の行動につながりやすい内容となるよう、丁寧に調整を重ねました。

また、開発過程においては、障害当事者の方々への意見聴取も実施しました。その中では、「役に立つと感じた」「非常に有意義である」といった肯定的な評価が多く寄せられたほか、「具体的な言葉遣いや声かけの例示があることで、実際の場面をよりイメージしやすい」「ゲーム内での行動の結果がどのような影響をもたらすかまで示されると、さらに学びが深まる」といった建設的な意見も得ることができました。これらの意見を踏まえ、コンテンツの改善を重ねながら完成度を高めていきました。

さらに、インフルエンサーの活用、ゲームプラットフォーム内での広告など、複数のチャネルを組み合わせた広報施策を実施し、実際の利用データをもとに効果検証を進めました。



障害及び障害者理解促進のためのゲーム型コンテンツ「探せ！みんなのできごと」イメージ



プロジェクトの成果

本プロジェクトにより、ゲームのプレイ回数は47,500回を超え、アンケートにおける「ゲームを通して障害やコミュニケーションへの理解が深まりましたか？」という設問において、5段階評価で平均4.11という評価を獲得するなど、一定の効果が確認されました。また、「ゲームを通じて理解を深められる意義ある取組だった」「楽しみながら学ぶことができ、友人にも紹介したい」といった定性的な評価も多く寄せられ、学びのあるコンテンツとして一定の手応えを得ることができました。

2 中央卸売市場 × 株式会社 STAR UP

協働テーマ

複数ある市場施設の膨大な電子化された図面をクラウドで一元管理し、業務効率化につなげたい！

協働の様子

本協働プロジェクトで最初のステップとして実施する対話イベントでは、中央卸売市場としての役割や日々の業務の概要を説明した上で、**現在の業務がどのような状況にあるのか、現場の実態が率直に共有されました。**その中で、一部の紙図面の電子化を行ってきたものの、一元管理されていないことから、電子化のメリットを現場として実感できていない問題点が明らかになりました。

このような対話イベントを通じて、**中央卸売市場が抱える業務実態や問題点を共有したことで、STAR UP 側において課題への理解が深まり、現場ニーズに即した最適なソリューションの提案につながりました。**

9月中旬から開始した協働プロジェクトでは、特に現場での運用にどのような形が適しているのかに焦点を当て、**既存のプロダクトをそのまま導入するのではなく、現場の業務フローや実際の使われ方を踏まえ、必要な情報を円滑に検索・活用できるよう、丁寧にカスタマイズを行いました。**また、現場での円滑な導入を見据え、操作方法や活用イメージを共有する説明会も実施し、そこで得られたフィードバックをシステムに反映することで、さらなる改善につなげました。

対話イベントにとどまらず、**その後の協働フェーズにおいても継続的に対話を重ねることで、中央卸売市場が目指す成果の創出につながる形でプロジェクトを推進することができました。**



A図面管理・検索プラットフォーム「ARCHAIVE」イメージ

プロジェクトの成果

AI 図面管理・検索プラットフォームの導入及びカスタマイズにより、図面の一元管理及び検索性を実現することで、**市場施設の維持管理業務の効率化が見込めることを確認**できました。また、**ユーザーアンケートでは継続利用意向が 90%となるなど、今後の実装に向けた期待や可能性が示され、非常に高い効果が確認**できました。

中央卸売市場にとっては、今回開発したシステムにより、図面情報の一元管理及び検索性の実現や現場への導入可能性を検証できましたが、それだけでなく、STAR UP にとっても、製造業界や建設業界で培った図面・帳票管理のノウハウが、今回の協業を通じて行政現場での導入効果が確認できたことにより、パブリック領域での事業拡大の可能性が拓けることとなりました。

3 水道局 経理部×Zero To Infinity 株式会社

協働テーマ

無人資材置場の管理を遠隔で行い、業務効率化につなげたい！

協働の様子

本協働プロジェクトでは、最初のステップとして実施する対話イベントに先立ち、**実証フィールド**である**狛江地区の資材置場**を実際に訪問し、**機械警備発報の要因や巡回点検の実態、災害時対応における課題**を現場で確認しました。事前に現場視察を行ったことで、課題の背景や制約条件を関係者間で具体的に共有することができ、その後の協議や設計においても、認識のずれが少ないスムーズなコミュニケーションにつながりました。

対話イベント後、選定プロセスを経て採択事業者を決定し、10月から協働プロジェクトを開始しました。プロジェクト期間中は、**現場関係者へのヒアリングやデータ検証を重ねながら、既存のプロジェクトをそのまま導入するのではなく、狛江地区の資材置場を実証フィールドとして、現場の運用に適した形へとカスタマイズを行いました。**

協働プロジェクト期間中はスタートアップが狛江地区の資材置場を管理する関係事業者へ現状の巡回の方法や課題についてヒアリングを実施し、侵入者以外にも機械警備が発報する原因として小動物、鳥類、草木の揺れが考えられることを把握しました。また、現場訪問を何度も行い、人による資材置場内の正常巡回や盗難時を想定した柵の乗り越え行動等の検知のためにエッジセンサーが取得すべき行動のデータを学習させることで、精度を高くすることができました。



対話イベントでの現地視察



発報時の映像を確認したところカラスが…



盗難行動検知のためのテスト

プロジェクトの成果

本プロジェクトでは、AIモデルの学習状況を確認し精度向上につなげることを目的として、中間段階で一度検証を実施し、その結果を踏まえた調整・改善を行った上で、最終的な効果検証を目的とした実証を改めて実施。無人資材置場における業務効率化、災害時業務迅速化、盗難状況把握について、定量的な効果を確認しました。その結果、**センサーおよびAIによる検知精度は合致率94%を記録し、より高い精度で状況把握が可能であることが確認されました。**本取組は、職員等の負担軽減につながるだけでなく、災害時・盗難時の迅速な対応を可能とすることで、より信頼性の高い管理体制の構築に寄与すると考えられます。